

地域における雇用創造（事業評価）

まとめ

地域社会雇用創造事業の目標は、「グラウンドワーク・インターンシップ」により地域のNPOや社会的企業の担い手を育成すること、そして「グラウンドワーク・インキュベーション」により起業家を支援することを通して、地域の社会サービスと雇用を加速的に創造することにあります。

インターンシップ事業には、多くの求職中の方、起業準備中の方、そして地域の中で活躍の場を探している年金生活者の参加があり、2012年2月末までに、102名より就職・起業の報告がありました。研修を受講された方が、インターンシップで何を学び、またどのようなきっかけで進路を切り拓くことができたのかについて、代表事例を紹介します。また、インターンシップの研修生には、公務員、会社員、そしてNPO等のスタッフ等、有職者の方も多く含まれていました。研修に参加した皆さんが、インターンシップで何を身につけ、よりよい社会サービスを提供できるようになったのかというアンケート結果についても概観します。

さらに、インキュベーション事業においても、2012年2月末までに、109名の方が、NPO法人や株式会社等の社会的企業を立ち上げました。インキュベーション事業の社会的効果としては、起業による企業の付加価値(利益)の創出や、社会的課題の解決、そして雇用の創出を通じた納税の増加、社会保険料の増加、公的給付や手当の減少が含まれます。グラウンドワーク三島では、これらの社会的効果について、社会的投資収益率(SROI)分析の手法を用いた評価を実施中で、その結果についても、2012年5月に公表の予定です。ここでは、インキュベーション事業による起業支援の効果をみるために、起業した109名に対するアンケート調査の結果をご紹介します。



地域における雇用創造（事業評価）インターンシップ

グラウンドワーク・インターンシップの受講生には、626名の未就業者(求職中・起業準備中・主婦・年金生活者等)や906名の学生が含まれており、102名よりインターンシップで学んだことをいかし、あるいはインターンシップが直接的なきっかけとなり、就職や起業を果たしたという報告がありました。(具体的な事例については、P31をご参照ください。)

就職	81名
起業	21名
合計	102名

また、インターンシップによる意識の変化をみるために、研修受講時の現職カテゴリーについて、「学生」「未就業者」「NPO関係者」「その他」の4つに分類して、比例配分による報告書のランダム・サンプリングを行い分析したところ、特に記述が多かった項目は以下の通りでした。

意識の変化	合計	内訳(現職カテゴリー別)			
		学生	未就業者	NPO関係者	その他
サンプル数	158	59	31	25	42
人のつながりの重要性の認識	114	42	18	12	42
学習意欲の高まり	75	31	14	5	25
NPO・社会的企業への関心	49	9	9	8	23
社会貢献への意欲の高まり	35	9	10	3	13
地域課題の積極的探究	31	19	3	3	6
自分自身の可能性への気づき	27	5	5	4	13
起業意欲の高まり	22	3	5	4	10
環境保全への意識の高まり	21	7	4	2	8

※有意水準5%を満たす総サンプル数 158、意識の変化8項目に対して複数回答有

最も高い意識の変化が見られた項目は、「人のつながりの重要性の認識」についてで、これは全ての現職カテゴリーに共通していました。報告書の記述からは、特に集合研修においてグラウンドワーク三島による市民・NPO・企業・行政のパートナーシップの事例を学んだことが大きな契機となったことが伺えました。また次にポイントが高かった「学習意欲の高まり」については、集合研修における知識の習得と、OJT研修における現場体験という研修の組み合わせについての記述が目立ち、特に学生において顕著な傾向となっていました。その他、「NPO・社会的企業への関心」、「社会貢献への意欲の高まり」、「地域課題の積極的探究」、「自分自身の可能性への気づき」、「起業意欲の高まり」、そして「環境保全への意識の高まり」についても一定のポイントが集まり、これらの意識の変化は、いずれもNPO・社会的企業の担い手となるにふさわしいものであると言えます。

地域における雇用創造（事業評価）インキュベーション

グラウンドワーク・インキュベーションでは、109名がNPOや社会的起業を起業しました。既に、事業主を含めて43名の新規雇用を創出しており、事業が軌道に乗る5年後には、350名程度にまで拡大ことが予想されています。

起業者数	109名
雇用創造数	48名

なお、グラウンドワーク・インキュベーションによる起業支援の効果を見るために、起業した109名に対するアンケート調査を実施したところ、結果は以下の通りでした。

応募時点で、最も必要だと感じていたこと	合計	起業支援で最も役立つもの	合計
回答数	102	回答数	102
起業資金	56	起業支援金	74
起業に関する知識・ノウハウ	14	起業に関する研修	10
起業仲間	12	メンタリング・サービス	8
起業意欲	6	その他	10
相談相手	3		
その他	11		

アンケート調査では、起業のために、最も不足しており、また最も役立つ支援は、資金的なものという回答が圧倒的でした。ただし、グラウンドワーク・インキュベーションによる起業家は、平均100万円の起業支援金に加え、自己資金額は、平均56万円、多い方では700万円にのぼったことから、起業支援金が、自助努力の後押しとして活用されたことが伺えます。また、その他、応募の段階で必要と感じていた「起業に関する知識やノウハウ」「仲間」「相談相手」についても、起業支援として実施した「研修」や「メンタリング・サービス」が、一定の役割を果たしたと言えます。

なお、グラウンドワーク・インキュベーションによる起業家109名の内、96名(88%)が、グラウンドワーク・インターンシップの受講生であり、その内42名(39%)が、「インターンシップに参加しなければ起業しなかった」と回答しています。グラウンドワーク三島では、グラウンドワーク・インキュベーションに先行して、グラウンドワーク・インターンシップを開始し、事業計画作成ワークショップ等を通して、起業家マインドを育みましたが、それが一定の成果を生んだと言えるでしょう。

地域における雇用創造（事業評価）就職・起業事例

インターンシップ

インターンシップには、求職中の方、起業準備中の方、そして地域の中で活躍の場を探している年金生活者等の参加も多く、2012年2月末までに、102名より就職・起業の報告がありました。研修での学びが、就職や社会的企業の立ち上げにつながった代表事例を紹介します。

仲間の会社に就職!

集合研修で出会った北海道の研修生のビジョンや情熱に感銘を受け、社会的課題について考えるようになった。研修後、その研修生が起業することにあたり、事業を共に成功させたいと思い、大阪から転居して就職した。

I 期インターンシップ生 吉田 章紀

OJT団体にそのまま就職!

求職中に参加。インターンシップを受講し、シニアの支援していきたいと思うようになった。OJT団体より、ジョブ・オファーがあり就職した。

Ⅲ期インターンシップ生 黒澤 勇一

地元で起業!

集合研修では、NPO法人運営の留意点を学ぶことができたのが、大変参考になった。また多くの方と名刺交換をすることができ、人脈が広がった。これらを活かして、NPO法人「静岡団塊創業塾」を立ち上げ、地域のシニアの皆さんに対する創業支援を行っている。

Ⅲ期インターンシップ生 原田 和正

インキュベーション

インキュベーションでは、109名の方がNPO法人などの社会的企業を設立し、地域の中で雇用の受け皿となっています。なお、起業支援対象者の約1/3の方は、応募時には無職でした。自分自身の生計を立てるためにも懸命に、そしていきいきと事業を推進しています。

障がい者を雇用!

これまでクラフト作家として活動してきたスキルと、障がい者施設で縫製指導のボランティアをしてきたネットワークを活かして起業し、障がい者と共に、様々な布を使ってブックカバーや手帳カバーをデザイン、手作りし、販売している。

Ⅱ期起業支援対象者 高橋 洋美

市長も応援!

茨城県龍ヶ崎市の地域再生を目標として、市内中心にある米町商店街で、空店舗を改修して憩いの場とし、生活弱者支援やセミナーの開催などを行うNPO法人「竜ヶ崎駅前コムハウス」を設立した。2名を雇用。オープニングには市長も応援に駆け付け、地元の期待の大きさを実感している。

Ⅲ期起業支援対象者 松原 卓朗

陶芸家仲間と起業!

陶芸の里・瀬戸の活性化を図ることを目指して、陶芸作家仲間たちとNPO法人「Art-Set0」を立ち上げた。手始めに、現役陶芸作家の工房で直接指導を受けることができる「プチ修行者」の受け入れを行っている。

Ⅲ期起業支援対象者 李 末竜